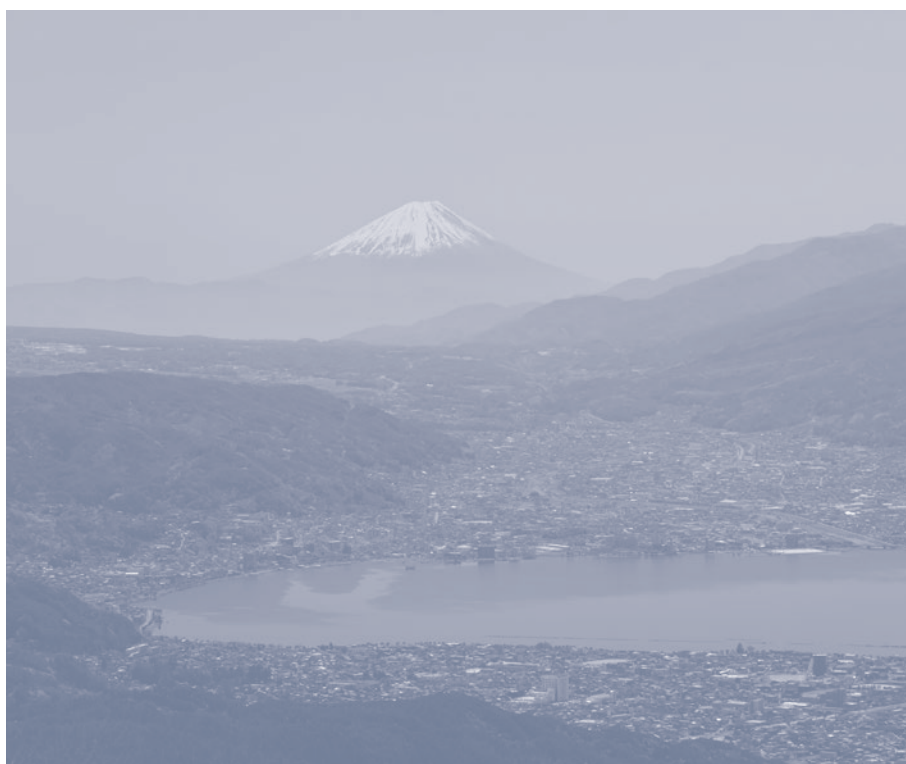


諏訪の景気動向

2021年5月

(2021年4月末D・I調査)



高ボッチ (岡谷市) より望む諏訪湖と富士山

《2021年5月25日》

諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

電話 0266-23-4567(代) FAX 0266-24-4055

諏訪地方の景気動向（2021年4月調査）

「2021年4月アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

【概況】 諏訪地方 193 社のご協力で行った 2021 年 4 月の「景気動向調査(DI調査)」は、回答全社の「3 ヶ月前」と比べた業況判断DIが 19.7 となった。前回調査時(2021 年 1 月末、以下同)の△12.2 から、31.9 ポイントの改善。前年同月比でも 20.2 で前回の△38.6 から大幅に改善した。海外需要の復調などで、好転企業が増加している製造業がけん引し、プラス水準となった。「3 ヶ月前」と比べた製造業の業況判断DIは 37.3 で、前回の 2.4 から大幅に改善した。一方、非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の同DIは△13.5 で、前回の△38.0 からは改善した。「3 ヶ月後」の業況予想DIは、製造業が 11.2(前回 5.5)と改善予想が続く反面、非製造業は△22.4(前回△11.3)と悪化し、回答全社では前回と同じ△0.5 となった。

諏訪地方で新型コロナウイルスの感染が初確認されて、1 年が経過した。感染第 1 波の影響が急速に拡大し、業況が大幅に落ち込んだ前年 4 月に比べると、今回は回復した企業が増えている。しかし、コロナ禍前の一昨年 4 月と比べると、まだ多くの企業がその水準に至っていない。本格回復とはいえない中で、諏訪圏域では新型コロナウイルス第 4 波が追い打ちをかけた。

製造業は、「3 ヶ月前」との比較で、業況は 45.2%の企業が好転し、7.9%の企業が悪化した。前回より好転企業が増加し、悪化企業が減少した。「前年同期比」の業況判断DIも前回の△33.3 から 36.6 と大幅に改善した。受注状況DIは、「3 ヶ月前」に比べて前回の 4.7 から 36.5 に改善した。「前年同期比」では前回の△33.4 から 33.4 へ改善しプラス水準となった。収益性DIは「3 ヶ月前」に比べ、前回の△2.3 から 11.9 へ改善した。中国や米国の需要が回復した自動車や半導体関連の回復が目立つ一方で、低調な業界の影響を受ける企業もあり、企業間格差はあるものの、総体的には改善傾向に向かっている。「3 ヶ月後」の業況予想DIは、前回の 5.5 から 11.2 へ改善している。

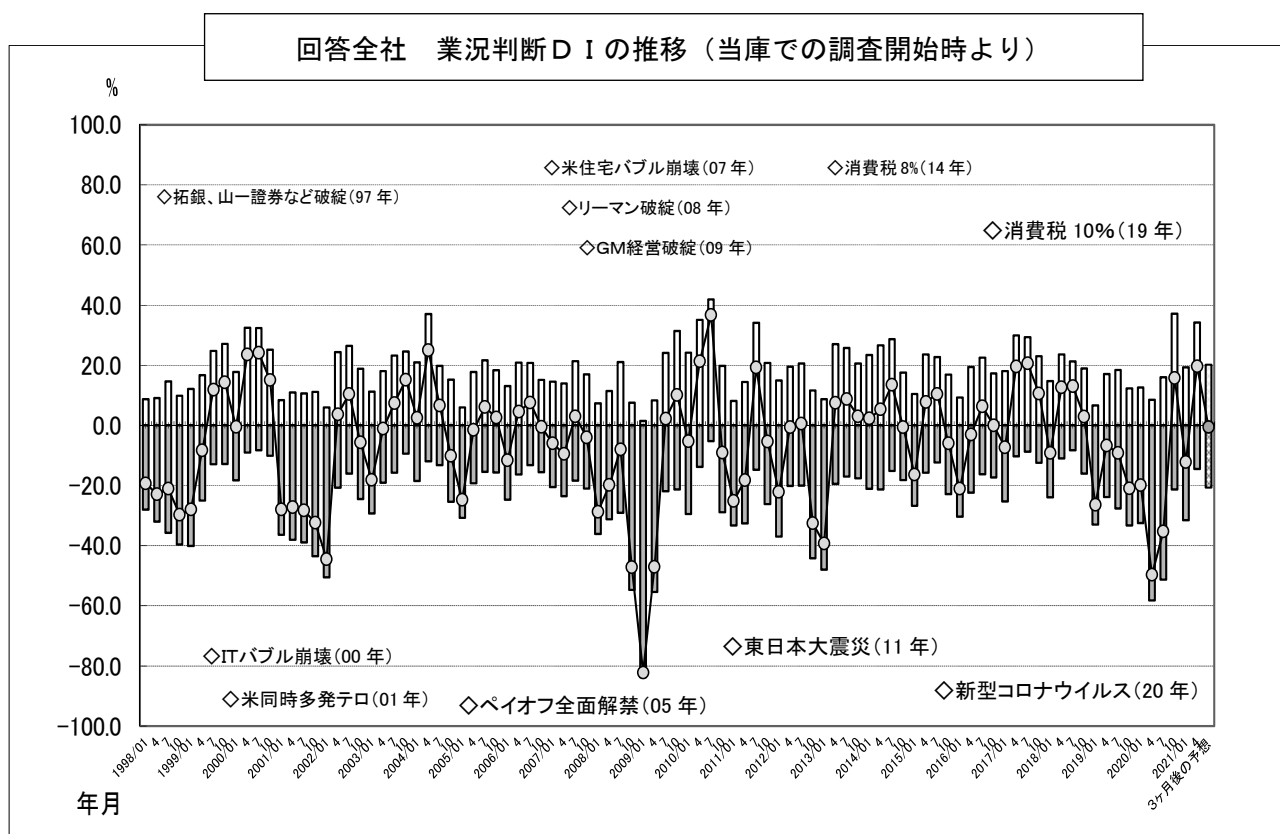
商業は、感染が小康状態だった昨年 10 月との比較で、大きく落ち込んだ前回より改善した。「3 ヶ月前」と比べた業況判断DIは△3.1 で、前回の△42.4 から改善した。来店客数DIも前回の△54.5 から△15.7 と改善した。「前年同期比」では、業況判断DIが前回の△54.6 から△3.1、来店客数DIは前回の△63.7 から△9.4 と改善した半面、客単価DIは前回の△9.1 から△12.5 へ悪化した。第 4 波による時短要請があった地域の飲食店は、大きな打撃となった。また、昨年はマスクや衛生用品などの特需があった小売店などは 4 月以降、前年の数値確保は厳しいとする企業もある。「3 ヶ月後」の業況予想DIは、好転が 12.5%で、悪化は 40.6%の△28.1 で前回の 3.0 から悪化している。

観光・サービス業は、3 ヶ月前は第 3 波、今回は第 4 波の影響を受け、「3 ヶ月前」と比べて、前回△78.6 だった宿泊客数DIは今回△50.0 と大幅なマイナス水準が続いている。業況判断DIは前回の△50.0 から△35.7 とやや改善した。「前年同期比」の業況判断DIは、緊急事態宣言下で宿泊施設が休業に追い込まれた前年 4 月との比較で△7.2 となり、前年同様に苦境に立たされている。今回も大都市で緊急事態宣言が発令されている状況となり、宿泊施設ではキャンセルが相次いだ。3 月に、一時的に割引効果で宿泊者数が伸びた上諏訪温泉も

再び、低調な状況に戻った。コロナ禍の影響が長引き、多くの企業の体力が落ちてきているが、本格的な観光シーズンとなる「3ヵ月後」の業況判断予想DIは△7.1で、前回の△21.5から改善している。

建設業は、「3ヵ月前」と比べた業況判断DIは△14.2で前回の△25.0から改善した。受注状況DIは△23.9で前回の△29.2からやや改善した。「3ヵ月後」の業況判断DIは△23.8で、前回の△16.6から悪化した。諏訪地方の2021年3月の新設住宅着工戸数は69戸で、前年同月比23戸減少(△25.0%)した。2020年4月～2021年3月の累計着工戸数は928戸で、前年同期比210戸減少(△18.5%)した。2021年4月の市町村からの受注工事は合計32件198百万円で、前年同月比で12件減少し、契約金額は233百万円減少した。2021年4月に地元業者が受注した国県関係の公共工事の累計は3件700百万円で、前年同月と件数は同じで、契約金額は503百万円増加(255.3%)した。

雇用状況は、2021年3月の諏訪地方の有効求人倍率が、前年同月を0.10ポイント下回り、前月を0.04ポイント上回る1.26倍だった。1倍台は84ヵ月連続で維持しているが、前年同月は24ヵ月連続で下回った。長野県内は1.25倍だった。全国は1.10倍で、完全失業率は2.6%だった。諏訪地方は、新規求人数(全数)が1,770人で前年同月比310人増加(21.2%)し、新規求職者数は846人で前年同月比114人増加(15.6%)している。産業別の前年同月比の新規求人数は、その他のサービス業が109.4%、卸・小売業が30.0%増加したが、運輸業で22.0%減少した。1件10人以上の人員整理は3件46人で、昨年3月以降で最多だった。事業主都合による雇用保険資格喪失者は52人で、前年同月より6人増加し、前月より25人増加した。



新型コロナウイルス感染拡大の諏訪地方への影響

2021年4月の諏訪地方は、新型コロナウイルス第4波に見舞われた。3月21日の1都3県の緊急事態宣言解除後、間もなく長野県では4月3日に第4波の発表があり、16日には諏訪圏域の警戒レベルが「5」になり、19日には諏訪市、茅野市、原村の酒類を提供する飲食店に時短要請が出された。また、全国の主要都市で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令された。

回答全社は「3ヵ月前」に比べ、79.2%(前回86.8%)の企業が「多大」または「多少」の影響があるとし、依然不安が強い。度重なる規制の動きは、観光や外食産業への影響が大きい。特に今回は地元での感染者増加で、客足が止まった。県の時短や休業要請の対象となる飲食店と取引がある納入業者にとっても大打撃で、自治体に支援を求める動きがあった。

産業別業況表

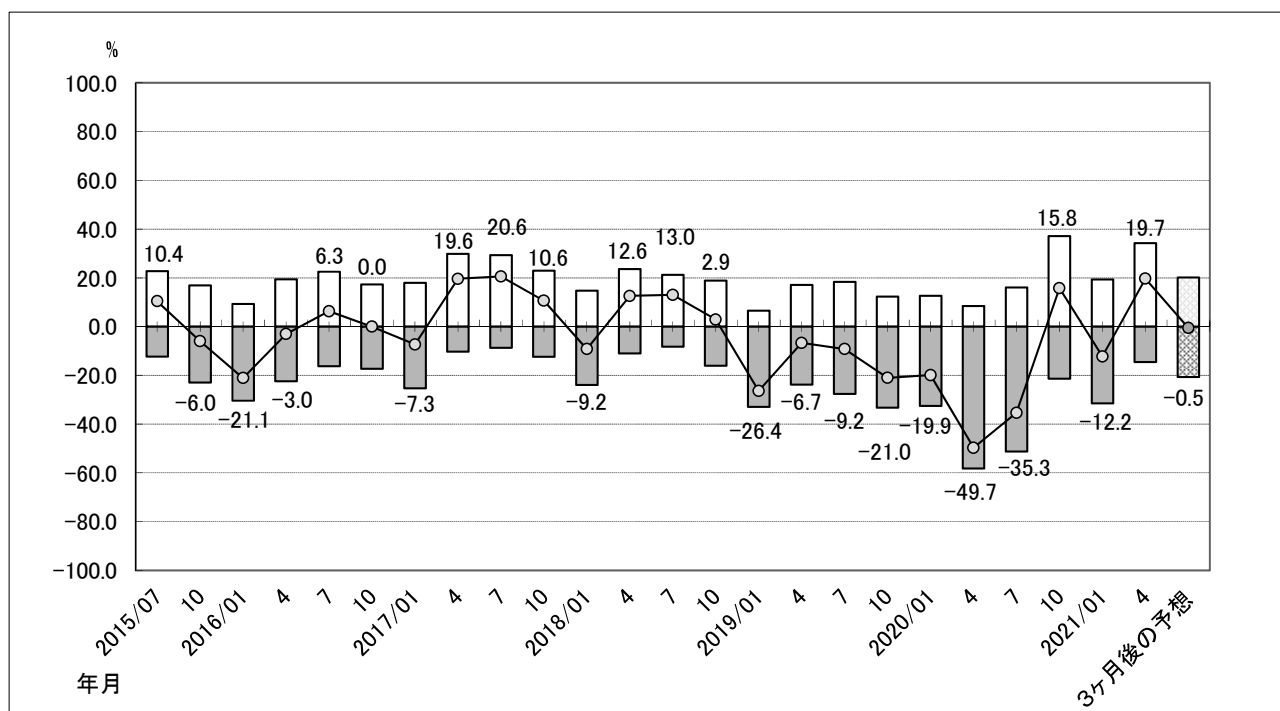
(企業数・%) 表-1

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全 体	193	34.2	51.3	14.5	19.7	193	44.6	31.1	24.4	20.2	192	20.3	58.9	20.8	-0.5
製造業	126	45.2	46.8	7.9	37.3	126	55.6	25.4	19.0	36.6	125	24.0	63.2	12.8	11.2
非製造業	67	13.4	59.7	26.9	-13.5	67	23.9	41.8	34.3	-10.4	67	13.4	50.7	35.8	-22.4
商 業	32	25.0	46.9	28.1	-3.1	32	31.3	34.4	34.4	-3.1	32	12.5	46.9	40.6	-28.1
建設業	21	4.8	76.2	19.0	-14.2	21	4.8	66.7	28.6	-23.8	21	4.8	66.7	28.6	-23.8
観光・サービス	14	0.0	64.3	35.7	-35.7	14	35.7	21.4	42.9	-7.2	14	28.6	35.7	35.7	-7.1

自社業況判断DIの推移

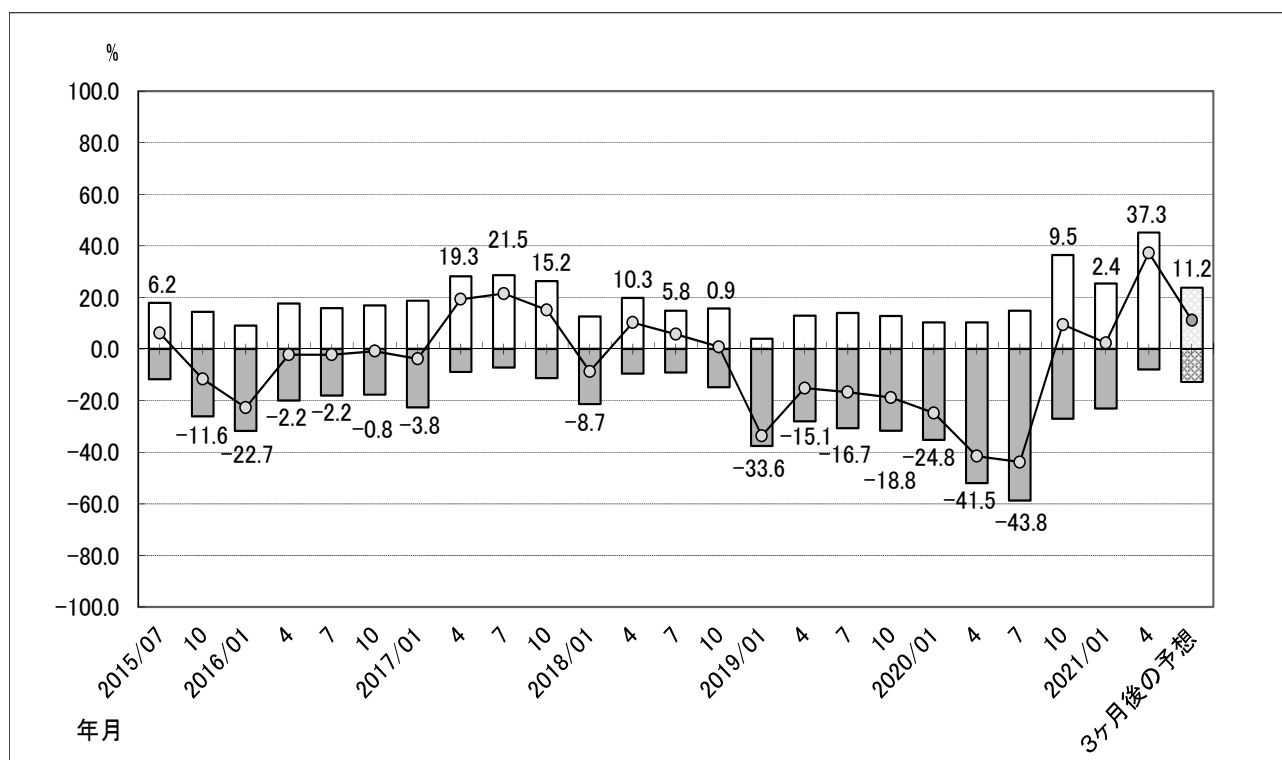
回答全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-1



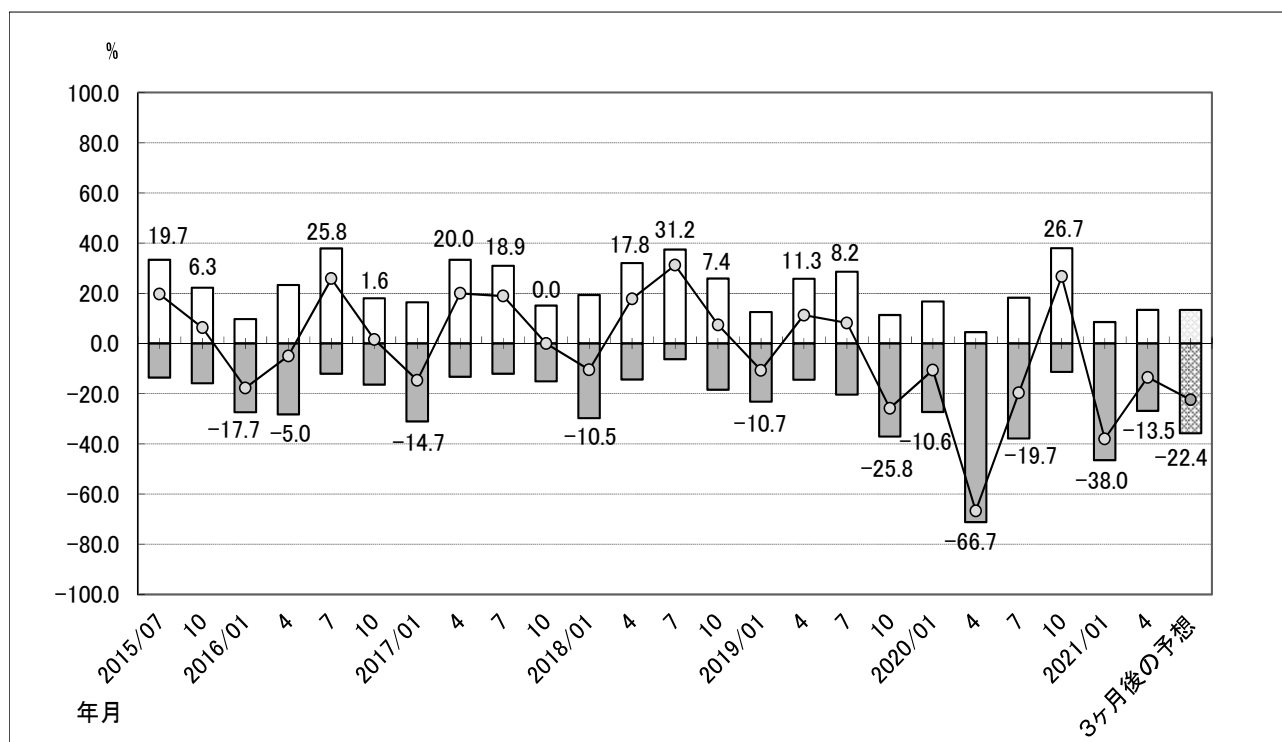
●製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー2



●非製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー3



産業別景気動向

1.製造業

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べ 37.3 で、前回の 2.4 から改善した。「前年同期比」は 36.6 で、前回の△33.3 から改善した。「3ヵ月後」の予想も 11.2 で、前回の 5.5 から改善した。

設備投資DIは、「3ヵ月前」に比べ 14.3 で前回の 4.7 から改善した。「前年同期比」も前回の△2.4 から 19.8 へ改善した。「3ヵ月後」の予想DIも 13.6 で、前回の 7.2 から改善している。

収益性DIは、「3ヵ月前比」で 11.9 と前回の△2.3 から 14.2 ポイント改善し、「前年同期比」は前回の△21.4 から 16.6 へ 38.0 ポイント改善した。「3ヵ月後」の予想も 2.4 で、前回の△1.6 から改善した。

業種別(主要5業種)の業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて、「金属製品」は 51.4 (前回 14.3)、「電気機械」52.2 (同 12.5)、「一般機械」17.3 (同△10.3)、「輸送用機械」45.5 (同 9.1)と改善したが、「精密機械」が 25.0 (同 27.3) とやや悪化した。

「前年同期比」では、「金属製品」が 42.8 (前回△45.7)、「輸送用機械」は 63.6 (同△18.2)、「電気機械」は 47.8 (同△25.0)、「一般機械」は 20.7 (同△20.7)、「精密機械」は 41.7 (同△72.7)とそれぞれ改善した。

「3ヵ月後」の予想DIは「一般機械」は 24.1 (前回 3.4)、精密機械は 0.0 (同△27.3)、「輸送用機械」が 0.0 (同△36.4)と改善したが、「金属製品」は 8.5 (同 17.2)、「電気機械」18.2 (同 29.1)で悪化した。

製造業は、自動車や半導体関連を中心に、回復傾向の企業が増えているが、材料の調達課題となりつつある。3ヵ月前に比べると、23.0%の企業が材料不足と回答している。海外からのコンテナ不足や国内材料メーカーの工場縮小などの要因があり、価格が高騰している素材もある。業況が上向くにつれ、労働力の確保を課題とする企業も増えている。一方、製造業では「新型コロナウイルス感染拡大の影響がない」とする回答が増えている。3ヵ月前と比べて前回の 12.7%から 24.6%に増えた。前年同月比でも前回 8.7%から 22.2%に増えている。「3ヵ月後」は 20.8%で、前回の 8.7%から増加している。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業	好転	横這	悪化	DI	回答 企業	好転	横這	悪化	DI	回答 企業	好転	横這	悪 化	DI
製造業		126	45.2	46.8	7.9	37.3	126	55.6	25.4	19.0	36.6	125	24.0	63.2	12.8	11.2
規 模	1～29人	70	47.1	42.9	10.0	37.1	70	40.0	32.9	27.1	12.9	70	21.4	62.9	15.7	5.7
	30～99人	40	35.0	57.5	7.5	27.5	40	70.0	17.5	12.5	57.5	39	30.8	61.5	7.7	23.1
	100人～	16	62.5	37.5	0.0	62.5	16	87.5	12.5	0.0	87.5	16	18.8	68.8	12.5	6.3
中 分 類	金属製品 製造業	35	54.3	42.9	2.9	51.4	35	57.1	28.6	14.3	42.8	35	17.1	74.3	8.6	8.5
	一般機械 器具製造業	29	34.5	48.3	17.2	17.3	29	48.3	24.1	27.6	20.7	29	37.9	48.3	13.8	24.1
	電気機械 器具製造業	23	52.2	47.8	0.0	52.2	23	65.2	17.4	17.4	47.8	22	27.3	63.6	9.1	18.2
	輸送用機械 器具製造業	11	45.5	54.5	0.0	45.5	11	63.6	36.4	0.0	63.6	11	18.2	63.6	18.2	0.0
	精密機械 器具製造業	12	41.7	41.7	16.7	25.0	12	66.7	8.3	25.0	41.7	12	16.7	66.7	16.7	0.0

①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて51.4で、前回調査時の14.3から改善した。「前年同期比」は42.8で前回の△45.7から大幅改善した。「3ヵ月後」の予想は8.5で前回の17.2から悪化した。企業間に受注の格差はあるが、自動車関連は受注、見積りとも増加傾向となっている。ただ、半導体や樹脂などの関連資材の調達遅れが懸念されている。

●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて17.3で、前回の△10.3から改善し、「前年同期比」は20.7で、前回の△20.7からプラス水準になった。「3ヵ月後」の予想は24.1で、前回の3.4から改善している。自動車の電装関連の設備需要が復活し、大型案件も出ている。コロナ禍で先送りになっていた案件も動き出してきた。工作機械は、中国や北米など海外向けの需要が活発だが、国内向けの需要はまだ低調。設備投資の動きが活発化して人の確保が難しくなり、省力化への動きが加速している。

●電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて52.2で、前回の12.5から改善し、「前年同期比」も47.8で前回の△25.0から改善した。「3ヵ月後」の予想は18.2で前回の29.1からやや悪化した。プリント基板関連は、国内外で回復基調となり、防犯カメラやドライブレコーダー、ウェアラブルデバイスが好調。DXやIOTへの動きが、コロナ禍で一気に加速し、電子回路市場は活気がある。

●輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて45.5で、前回の9.1から改善し、「前年同期比」も63.6で、前回の△18.2から大幅改善した。「3ヵ月後」の予想も0.0で、前回の△36.4から改善した。各自動車メーカーが全体的に動いてきた。サプライチェーン対策として在庫確保の動きもある。ただ、受注要請はあるものの、シリコン、金属など幅広く材料調達が遅れている。農業機械は、北米に加えて東南アジア向けも好調となっている。

●精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて25.0で、前回の27.3からやや悪化した。中国で車載カメラ用レンズが大量生産されるため、国内で材料不足が生じている。酸素吸入器向け圧力計の需要は多いが、圧力計に使用される特殊材料の確保が難しい。

②規模別業況

業況判断DIは、「3ヵ月前」と比べて「1～29人」規模は前回の△10.0から37.1へ改善し、「30～99人」規模は前回の14.6から27.5へ改善した。「100人以上」規模は前回の26.6から62.5へ改善した。「前年

同期比」は「1～29人」規模が前回の△45.7から12.9へ改善し、「30～99人」規模も前回の△17.1から57.5へ改善した。「100人以上」規模も、前回の△20.0から87.5へ改善した。一方、「3ヵ月後」の予想は、「1～29人」規模が前回の2.9から5.7へ改善し、「30～99人」規模は前回の14.7から23.1へ改善した。「100人以上」規模は前回の△6.7から6.3へ改善した。

③受注状況DI(規模別、業種別)

製造業全社の「3ヵ月前」と比べて受注状況DIは「増加」企業 50.8%、「減少」企業 14.3%で36.5と、前回調査時の4.7から改善した。「前年同期比」は33.4で前回の△33.4から改善した。「3ヵ月後」の予想も前回の3.2から10.4へ改善した。

規模別の受注状況DIは、「3ヵ月前」と比べて「1～29人企業」は27.1で前回の△7.1から改善し、「30～99人企業」は32.5で前回の19.5から改善した。「100人以上企業」は87.5で前回の20.0から改善した。「前年同期比」は「1～29人企業」が11.4で前回の△45.7から改善し、「30～99人企業」も50.0で前回の△14.6から改善した。「100人以上企業」も87.5で前回の△26.7から改善した。「3ヵ月後」の予想は「1～29人企業」が2.9で前回の2.8とほぼ同率で、「30～99人企業」は25.7で前回の7.3から改善し、「100人以上企業」は6.3で前回の△6.7から改善した。

業種別(主要5業種)の「3ヵ月前比」は、「金属製品」が前回の20.0から45.7、「精密機械」が9.1から16.7、「電気機械」は12.5から47.8、「輸送用機械」が0.0から72.7、「一般機械」は3.4から13.8へそれぞれ改善した。「前年同期比」では、「輸送用機械」が△18.2から72.7、「金属製品」が△45.7から28.5、「電気機械」は△29.2から39.1、「一般機械」は△10.3から34.5、「精密機械」は△63.6から33.4へそれぞれ改善した。

「3ヵ月後」の予想は、「電気機械」が20.8から27.3、「一般機械」が0.0から20.7、「精密機械」は△27.3から△8.4、「輸送用機械」は△36.4から0.0へ改善し、「金属製品」が前回の17.1から2.8へ悪化した。

業種別・規模別受注状況表

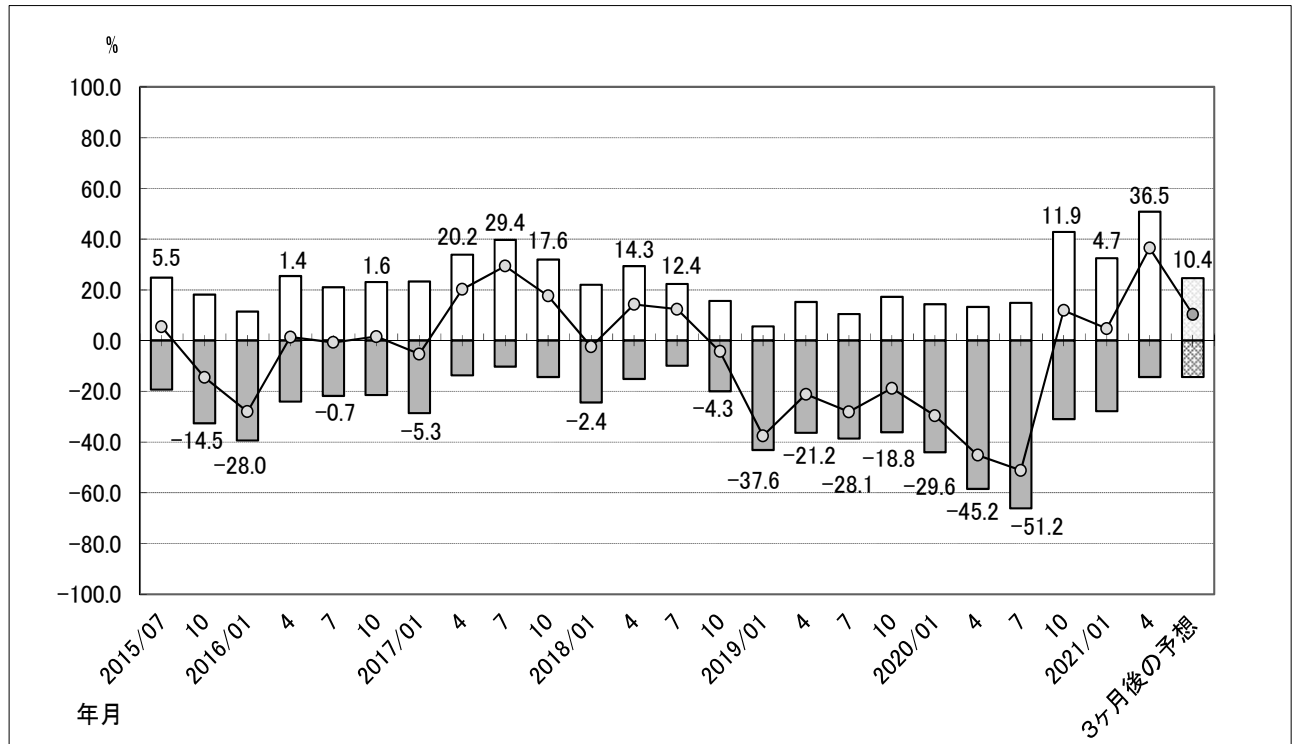
表－3

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業	増加	不変	減少	DI	回答 企業	増加	不変	減少	DI	回答 企業	増加	不変	減少	DI
製造業		126	50.8	34.9	14.3	36.5	126	55.6	22.2	22.2	33.4	125	24.8	60.8	14.4	10.4
規模	1～29人	70	45.7	35.7	18.6	27.1	70	41.4	28.6	30.0	11.4	70	22.9	57.1	20.0	2.9
	30～99人	40	45.0	42.5	12.5	32.5	40	67.5	15.0	17.5	50.0	39	30.8	64.1	5.1	25.7
	100人～	16	87.5	12.5	0.0	87.5	16	87.5	12.5	0.0	87.5	16	18.8	68.8	12.5	6.3
中分類	金属製品 製造業	35	60.0	25.7	14.3	45.7	35	57.1	14.3	28.6	28.5	35	17.1	68.6	14.3	2.8
	一般機械 器具製造業	29	31.0	51.7	17.2	13.8	29	51.7	31.0	17.2	34.5	29	37.9	44.8	17.2	20.7
	電気機械 器具製造業	23	56.5	34.8	8.7	47.8	23	56.5	26.1	17.4	39.1	22	31.8	63.6	4.5	27.3
	輸送用機械 器具製造業	11	72.7	27.3	0.0	72.7	11	72.7	27.3	0.0	72.7	11	18.2	63.6	18.2	0.0
	精密機械 器具製造業	12	41.7	33.3	25.0	16.7	12	66.7	0.0	33.3	33.4	12	8.3	75.0	16.7	-8.4

製造業の受注状況DIの推移

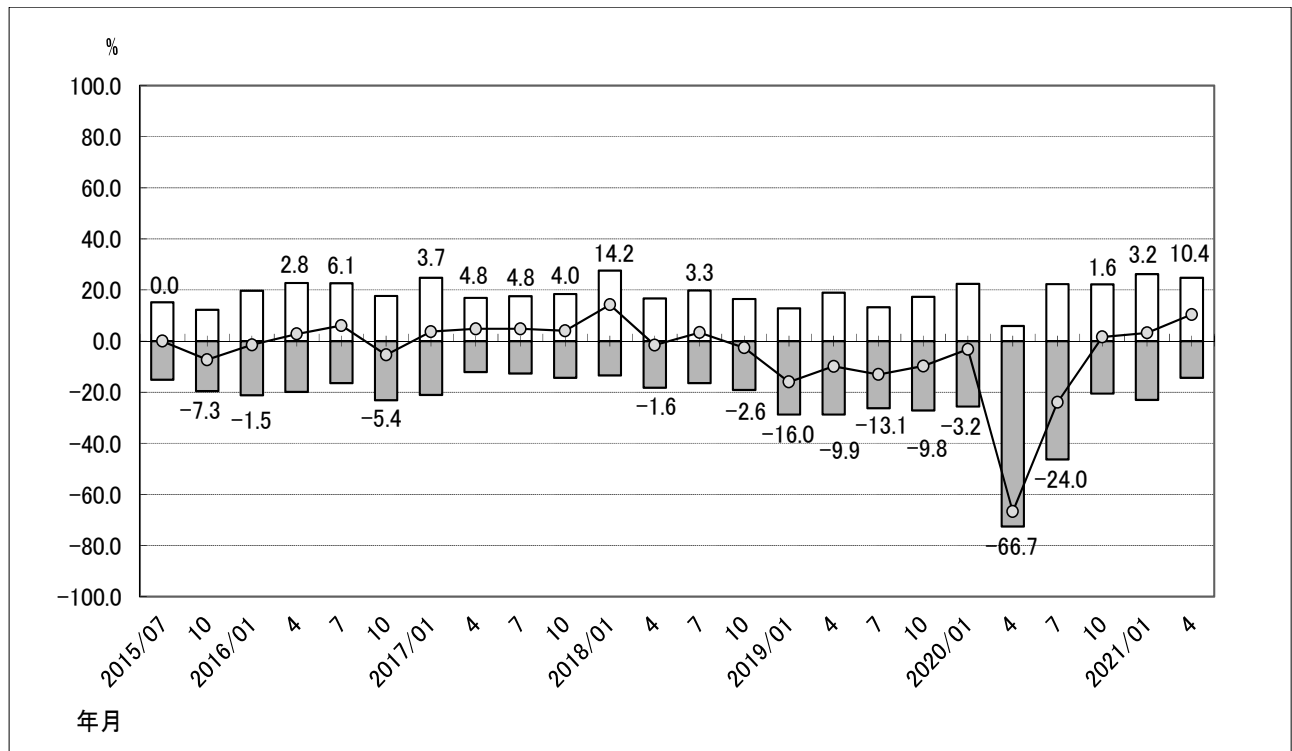
●製造業全社:「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー4



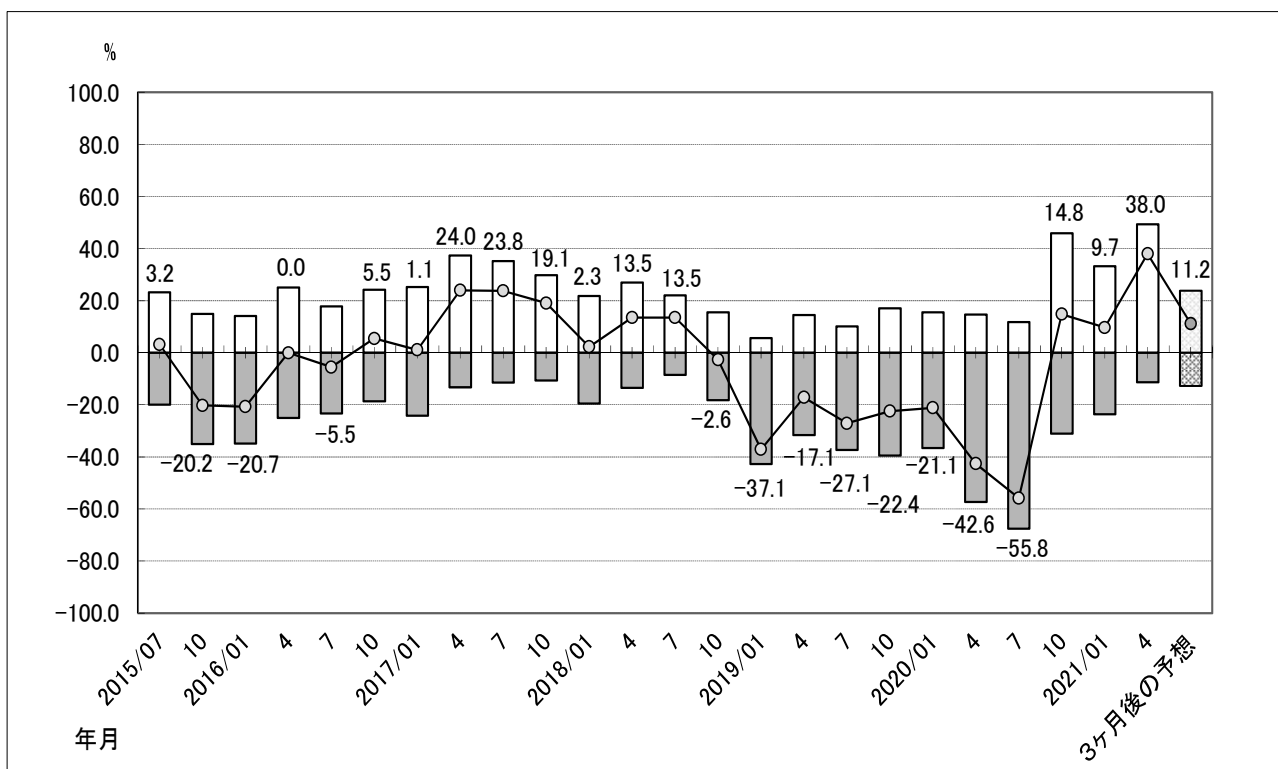
●製造業全社:「3ヵ月後」の受注予想DIの推移

グラフー5



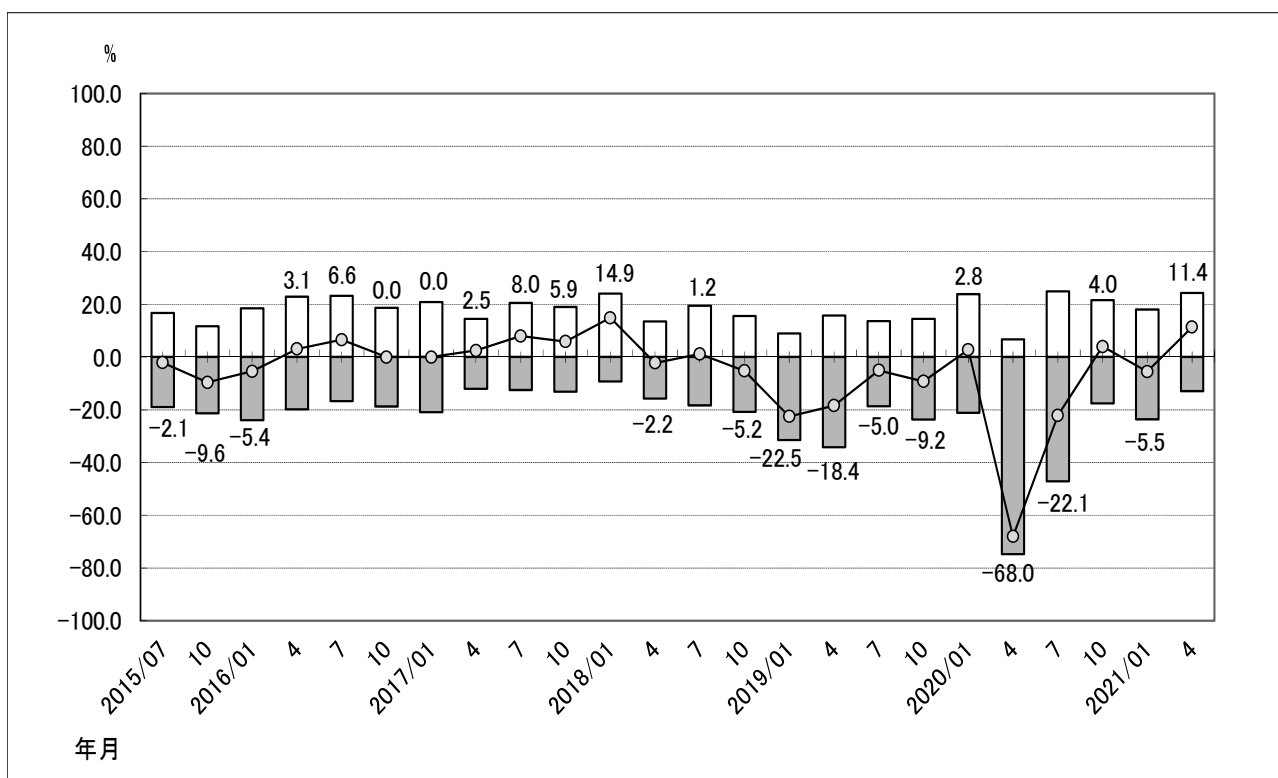
●製造業 主要5業種:「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー6



●製造業 主要5業種:「3ヵ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



2. 商業・観光サービス業

① 商業

4月の前年同期比では、前年に落ち込んだ反動で売上が増加した企業と、前年にあった巣ごもり特需の維持が難しくなっている企業の両面が見られる。第4波は御柱祭にも影響し、従来は御柱祭の前年春から増加する法被や腹掛け、シャツなど御柱関連商品の売行きが、今年は低調にとどまっている。

- 大型店 コロナ感染が始まり、マスクや米、トイレットペーパーなどの備蓄品の買い占めがあった前年4月に比べて、売上が減少している。
- 自動車 諏訪地方の4月の車庫証明件数(軽自動車除く)が811件で、前年同月比では42件増加(5.5%)した。半導体不足で自動車の生産が間に合わず、販売にも支障が生じている。
- 書店 依然、書籍の売上に占めるコミックの割合が高い。
- 生花店 コロナ禍で花卉生産業者が生産量を調整し、仕入れ価格が上昇傾向となっている。
- 家電 加湿器や空気清浄機などの衛生機器、パソコンやプリンターなどの通信機器の需要は多く、品薄状態になっている。
- 飲食店 時短要請のない地域でも夜間の利用客が少なく、自主的に閉店時間が早まった。例年ある花見シーズンの団体客は、どこも低調だった。

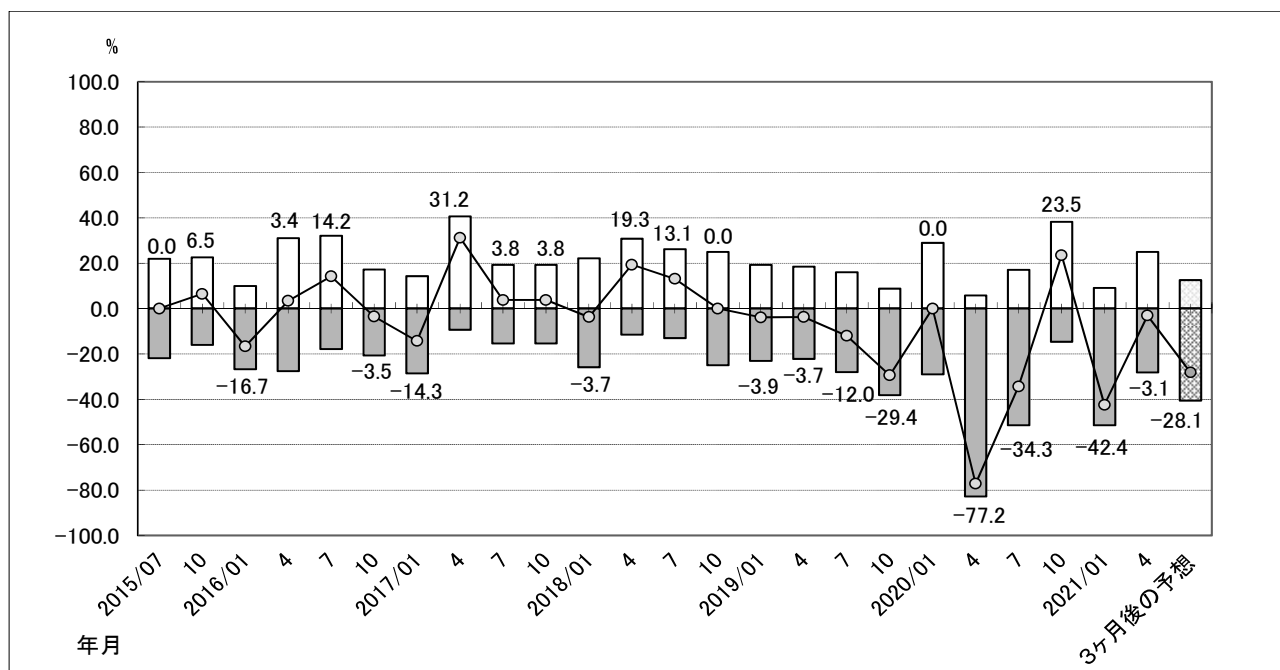
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業 況	32	25.0	46.9	28.1	-3.1	32	31.3	34.4	34.4	-3.1	32	12.5	46.9	40.6	-28.1
客単価	32	15.6	62.5	21.9	-6.3	32	21.9	43.8	34.4	-12.5	32	15.6	59.4	25.0	-9.4
来店客数	32	15.6	53.1	31.3	-15.7	32	25.0	40.6	34.4	-9.4	32	15.6	43.8	40.6	-25.0

●商業全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-8



② 観光・サービス業

昨年4月は緊急事態宣言が全国に拡大し、旅行需要が急速に減少した時期で、諏訪地方の宿泊施設の多くが休業し、当金庫のDI調査では3ヵ月前と比べた宿泊客数が異例の悪化のみの△100となった。それに比べると、今回は人の動きがあり増加しているが、コロナ前の一昨年比ではほとんどの宿泊施設が減少している。また、諏訪地域の警戒レベル5への引上げで、予約キャンセルが急増した。

- 上諏訪温泉 集客できる要素がなく低迷が続いている。桜開花に伴う集客もなく、広告宣伝も行えず、打つ手がない状態。ゴールデンウィークは前半健闘したが、後半は稼働率が40%以下に落ち込み、休館した施設もあった。
- 下諏訪温泉 諏訪圏域はマイナス要因が大きく、ボート関係の団体予約がキャンセルとなった。
- 蓼科・白樺湖 首都圏の緊急事態宣言で、満室だった予約が半数になった施設もあるが、蓼科道の駅センターハウスがオープンし、蓼科周辺の宿泊施設ではゴールデンウィーク前半は概ね好調だった。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた4月の参拝者数は約3万7千人で、前年同月比約2万8千人増加(307.7%)した。

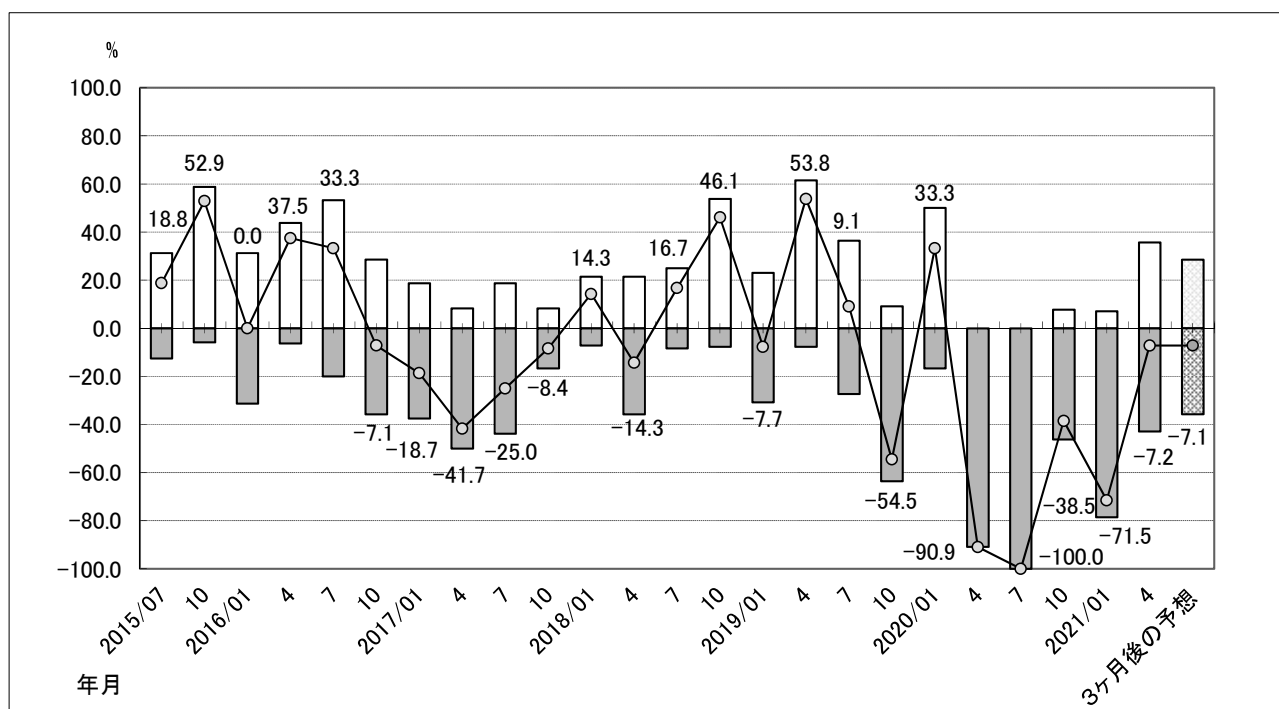
業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	14	0.0	64.3	35.7	-35.7	14	35.7	21.4	42.9	-7.2	14	28.6	35.7	35.7	-7.1
客単価	14	21.4	57.1	21.4	0.0	14	14.3	78.6	7.1	7.2	14	14.3	85.7	0.0	14.3
宿泊客数	14	7.1	35.7	57.1	-50.0	14	35.7	35.7	28.6	7.1	14	35.7	21.4	42.9	-7.2

●観光・サービス業全社:「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-9



3.建設業

受注状況DIは「3ヵ月前」と比べ、前回の△29.2から△23.9、「前年同期比」は前回の△50.0から△47.6とわずかながら改善した。外注発注量DIは「3ヵ月前」と比べ、△29.2から△28.5とほぼ同様に推移している。「3ヵ月後」の予想DIは、受注状況が△19.0で前回の△37.5から改善したが、業況判断は△23.8で前回の△16.6から悪化した。諏訪地方の2020年4月～2021年3月の新設住宅着工戸数は持家639戸、貸家107戸、分譲64戸、給与118戸で合計928戸となり、前年同期比で210戸、18.5%減少した。

●建築工事

諏訪地方の2021年3月の各市町村の新設住宅着工戸数は岡谷市20戸、諏訪市7戸、茅野市23戸、諏訪郡19戸の合計69戸だった。長野県全体の3月の新設住宅着工戸数は962戸で、前年同月比10.2%増加した。貸家は3ヵ月ぶりの減少、分譲は2ヵ月ぶりの増加となった。令和2年度合計は12,152戸。

●公共工事

2021年4月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は、3件700百万円だった。また、市町村からの受注工事は、建築工事0件、土木・水道工事26件188百万円、その他工事6件10百万円だった。4月から新たな国土強靱化計画がスタートしたことで、安定した発注が期待されている。

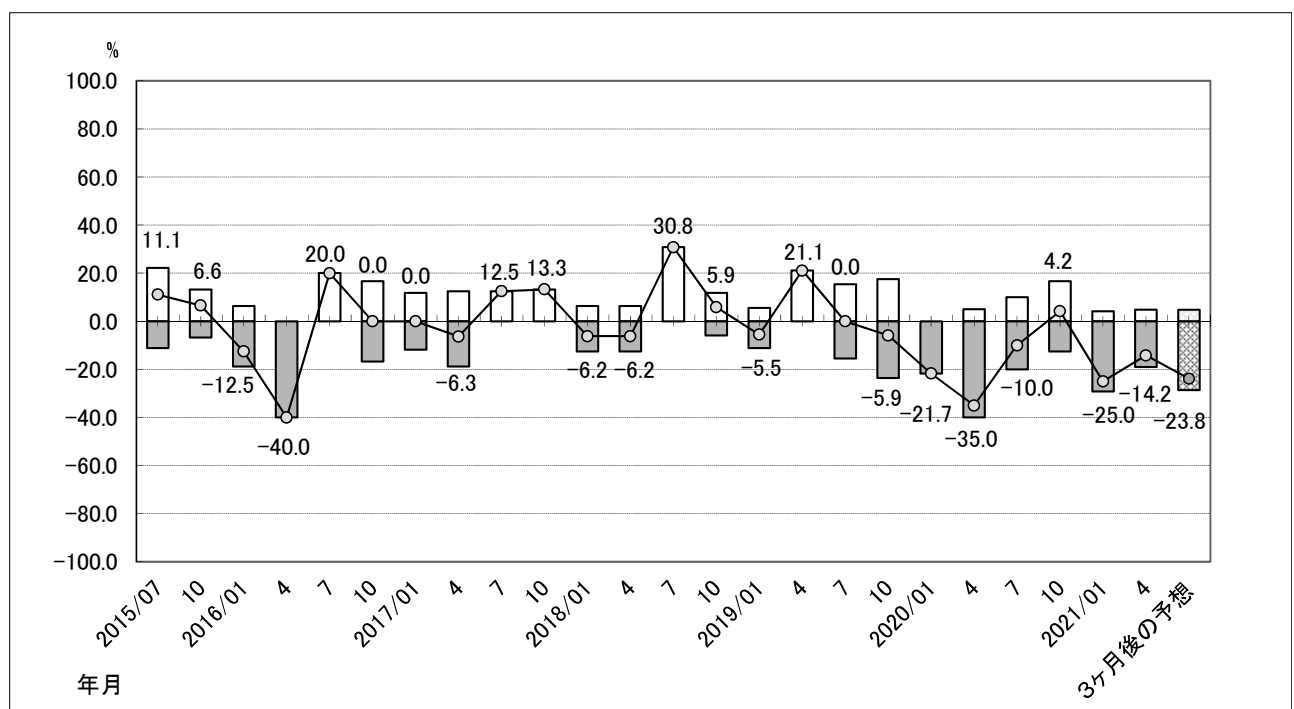
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	21	4.8	76.2	19.0	-14.2	21	4.8	66.7	28.6	-23.8	21	4.8	66.7	28.6	-23.8
受注状況	21	19.0	38.1	42.9	-23.9	21	9.5	33.3	57.1	-47.6	21	14.3	52.4	33.3	-19.0
外注発注量	21	4.8	61.9	33.3	-28.5	21	14.3	47.6	38.1	-23.8	21	14.3	52.4	33.3	-19.0

●建設業全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-10

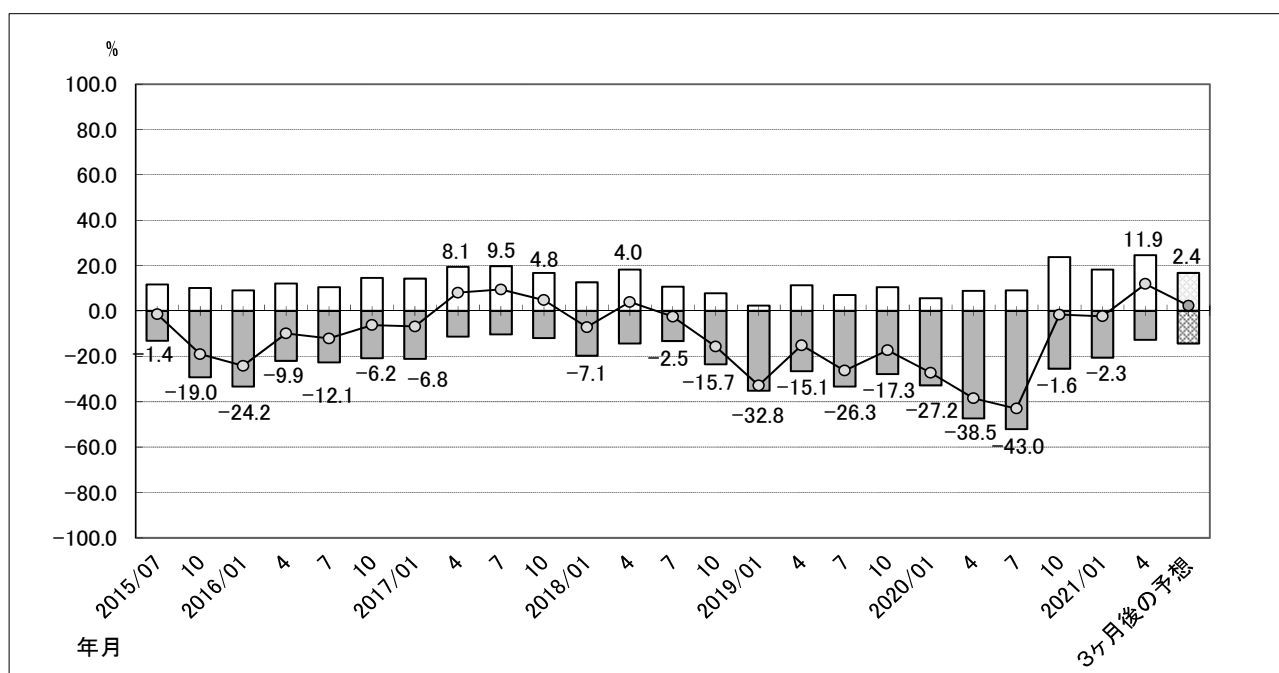


4.収益性状況

回答全社の「3ヵ月前」と比べた収益性は「好転」企業 20.7%、「悪化」企業 19.7%で、同DIは1.0と前回調査時の△15.7 から改善した。製造業は 11.9 で前回の△2.3 から改善し、非製造業は△19.4 で前回の△39.5 から改善しているが、依然マイナス水準が続く。回答全社の「前年同期比」は 5.7 で、前回の△29.9 から改善した。「3ヵ月後」の予想DIは、製造業が 2.4 で前回の△1.6 から改善したが、非製造業は△16.5 で前回の△12.7 から悪化した。回答全社では△4.2 となり、前回の△5.6 からわずかに改善した。

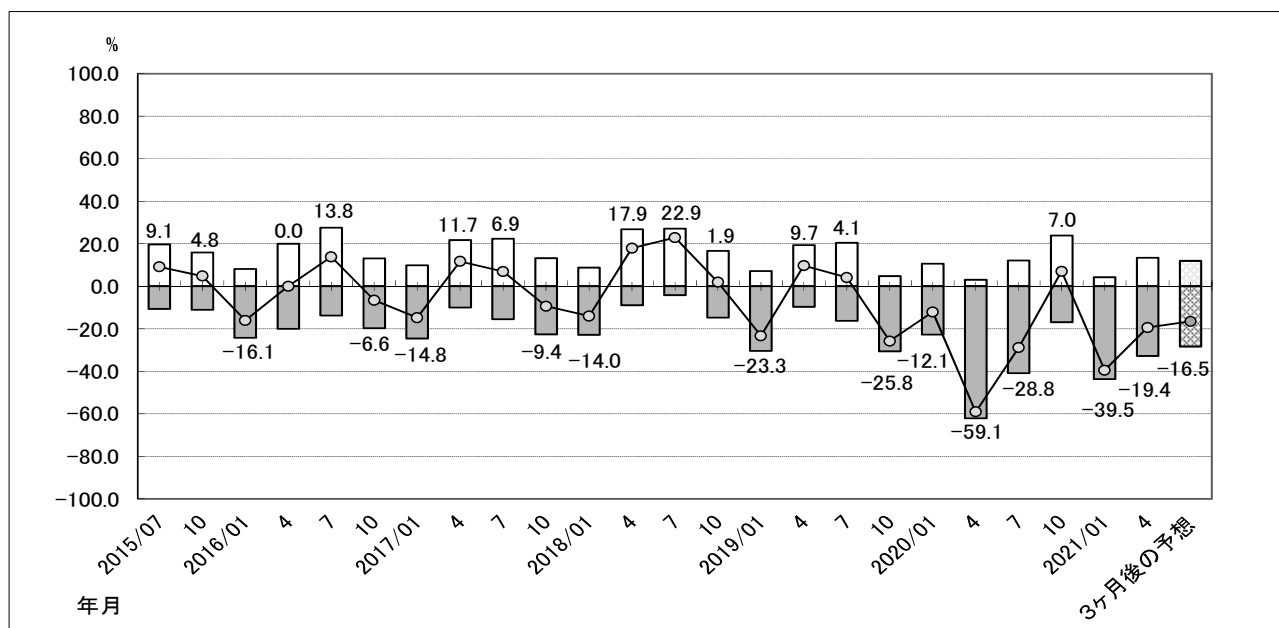
●製造業:3ヵ月前と比べた収益性DI

グラフー11



●非製造業:3ヵ月前と比べた収益性DI

グラフー12



5.経営上の課題

経営上の課題として①製造業は労働力確保と売上減少②商業も売上減少と労働力確保③建設業は競争激化と労働力確保④観光・サービス業は売上減少と資金繰りとなっている。

経営上の課題	合 計	製 造 業	商 業	建 設 業	観光・サービス業
売 上 減 少	95	52	21	9	13
単 価 引 下 げ	25	16	5	3	1
競 争 激 化	45	23	9	12	1
資 金 繰 り	44	23	8	5	8
人 件 費	37	18	8	4	7
労 働 力 確 保	76	53	10	11	2

6.諏訪地方主要経済指標

主要指標		実 数	前年同期比
有効求人倍率【3月】	ハローワーク諏訪	1.26 倍	△0.10 ポイント
手形交換高 【4月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	3,195 枚	△629 枚
	金 額	4,593 百万円	△1,143 百万円
	うち不渡り 発生状況	枚 数	0 枚
		金 額	0 千円
車庫証明取扱件数【4月】(諏訪地方合計)		811 件	5.5 %
新設住宅着工戸数【2020年4月～2021年3月】(諏訪管内)		928 戸	△18.5 %

7.調査概要

DI調査:業況などが「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ① 調査期間 2021 年 4 月。
- ② 調査内容 「2021 年 4 月時点」の実績と、「3 ヶ月前」と「前年同期」の業績比較および「3 ヶ月後」の予想。
- ③ 調査方法 DI調査および約 130 社のヒアリング調査。
- ④ 回答企業数 193 企業。
- ⑤ 回答率 77.2%

DI調査状況

	製造業	商 業	建 設 業	観光・サービス業	合 計
依 頼 数	160	40	30	20	250
回 答 数	126	32	21	14	193

今年に入ってから株価の伸びは日米で大きな差

日本では一部の地域で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され、オリンピック開催にも疑問の声が多く寄せられています。そうした中で、米国ではNYダウが最高値を更新しました。日本でも、日経平均が1時は3万円を超える状況でしたが、このところはNYダウほどの勢いはなくなりました。

まず、そのあたりから見てみましょう。

表は、昨年1月からの日米の主要株価指数である日経平均株価、NYダウの推移を表しています。両国ともに昨年3月にコロナの影響で安値をつけ、その後、回復しています。

昨年3月と今年5月14日の数字を比べた場合に、日経平均とNYダウとの上昇率ではそれほど大きな差がなく50%前後の上昇です。

一方、今年1月と5月14日を比べた場合には、日経平均は下落しているのに対し、NYダウは15%近くの上昇となっており、上昇スピードに大きな違いが出ているのが分かります。

両国ともに、金融は大幅に緩和しており、金融緩和の影響というよりは、経済回復のスピードの違いが株価に影響を及ぼしていると思われます。そして、その差を生んでいる大きな要因は現状ではワクチンの接種率であると私は考えます。

ワクチンの接種状況の違いが景気回復に影響

表の下部は、ワクチンの接種率の状況です。英オックスフォード大学の研究者らが集計する「アワー・ワールド・イン・データ」による5月5日現在の数字です。

この表から明らかなように、日本の接種率は米国に比べて大きく後れをとっています。米国では45%弱の人が少なくとも1回以上のワクチンの接種を受けているのに対し、日本ではわずか2%台と言った状態です。さらには、これはあまり褒められた数字ではありませんが、米国では、人口の約1割の約3300万人がコロナウイルスにすでに感染しており、それらの人たちも免疫を持っていると考えられます。一方、日本では、感染者が増加していますが、それでも累計感染者数は70万人弱で、人口の0.5%程度といった状況です。つまり、米国では約6割の人が何らかの免疫を持っていると考えられます。集団免疫ができるのは人口の7割程度と言われているが、それに近い数字です。

免疫を持った人が増えると、外出の制限も緩和され、事実、米国では、経済活動、とくにイベントや外出などが通常に戻りつつあり、そうした映像がテレビなどでこのところ放映されているのを目にする機会も少なくありません。米国では、このところ、個人消費の回復が顕著です。これには、バイデン政権が1人当たり最大で1400ドルの現金給付をしたことも追い風となっています。ワクチン接種により外出機会が増えるとともに、使えるお金も増えているということです。

米国ではGDPの約7割を個人消費が支えています。個人消費が堅調になれば景気に勢いが増します。一方の日本ではGDPの6割弱を個人消費が支えますが、緊急事態宣言などの影響もあり、なかなか本調子にはなっていません。

ワクチンの接種が進んで晩秋に景気回復

日本では、菅首相が1日100万人の接種をめざすと発表しています。日本の人口は1億2540万人と推計されていますが、打たない人も含めて、おおよそあと1億人分を打つ必要があります。

現状は1日100万人の接種には程遠い状況ですが、仮にこの1日100万人の接種体制が整えば、1億回(5千万人分)打つのに100日、3ヶ月強です。そこまできかなくとも1日50から60万回の接種としても半年後程度にはある程度の集団免疫ができるくらいの多くの人に接種がいきわたります。いずれにしても秋が深まるころ、接種率の向上とともに景気が回復する可能性が高いと私は考えています。



	日経平均	NYダウ
2020年1月	23,643	28,859
2月	23,180	25,409
3月	18,974	22,327
4月	19,208	24,634
.	.	.
2021年1月	28,189	29,983
2月	29,459	31,402
3月	29,315	33,067
4月	29,427	34,060
5月14日	28,084	34,382
昨年3月比	48.0%	54.0%
今年1月比	-0.4%	14.7%

5月14日との比較

	日本	米国
ワクチン接種率	2.2%	44.4%

5月5日現在

「諏訪の景気動向」についてのご意見、ご要望は
諏訪信用金庫 総務部へ
電話 0266-23-4567